

こうざ えもんつうしん 講左衛門通信

平成25年10月27日
第9号

発行 天台宗忍草山東円寺
〒401-0511
南都留郡忍野村忍草38
☎ 0555-84-4114

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん..



『講左衛門さん、今日は、第8番
霊場菖蒲池の紹介でまっすん。和
歌を詠むと、あやめ草となってい

るでまっすん。菖蒲池のしょうぶとは、花菖蒲？それとも
あやめ？どちらでまっすん。』

『これは困った質問じゃ。あやめなのか花菖蒲なのか、様々な意見があるんじゃが、正確には分かっておらんのか。しかし、クニマッスンが言うように、和歌に、あやめ草と詠まれておるからのう。まず、和歌と竜王の紹介をしようかのう。』

東叡山御免 第八番霊場 菖蒲池 優鉢羅 (ウハラカ) 竜王

あやめ草 名におふ池は くもりなき さつきの鏡 みるこちせり

意味 あやめ草の池と名付けられたこの池は、池のほとりに一面に咲き誇っているあやめが池面に映る様子が、いかにも澄み渡った、五月の青空を鏡に映したかのようだ。視る人々の心に、その観を興させるような池だ。

「優鉢羅」とは、サンスクリット語で、「青蓮華」という意味です。青蓮華池に住んで、人々に安らぎを与える竜王です。

『「あやめ」とは古典では「菖蒲」と書くそうじゃ。今の菖蒲と違うようじゃ。そのような意味から想像すると、どちらが正しいのか想像の域を越えないんじゃよ。しかし、青紫色の花が池面に映る様子は、五月晴の空を鏡に映したよと言えるほど、美しい池ということじゃ。』

『いつまでも、和歌に恥じないように、美しい池を未来に残さなくてはいけないでまっすん。講左衛門さん、菖蒲池には、鯉がたくさん泳いでいるまっすん。なぜ鯉がいるでまっすん。』

『昔、忍草の浅間神社のお祭りにお供えする魚は、菖蒲池の鯉をお神饌にしたんじゃよ。だからこの池は今でも、浅間神社の所有になっておるんじゃよ。』

『様々な歴史があるでまっすん。しっかり語り継がなくては、皆、忘れてしまうでまっすん。講左衛門さん、次回は何を紹介してくれるでまっすん。』

『次回は、東叡山（東京にある寛永寺）と東円寺の関係について話をしようかのう。東叡山御免の意味や、東円寺に残されている古文書など・・・東叡山寛永寺とのやり取りが残されておるんじゃ。とても貴重なものなんじゃが、なぜ、忘れられてしまったのか、それらの話もしようと思っておるんじゃよ。』

『難しそうでまっすん。だけど、勉強、勉強でまっすん。』



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは富士山案内責任者)

『講左衛門通信』は、第2・第4日曜日に発行予定